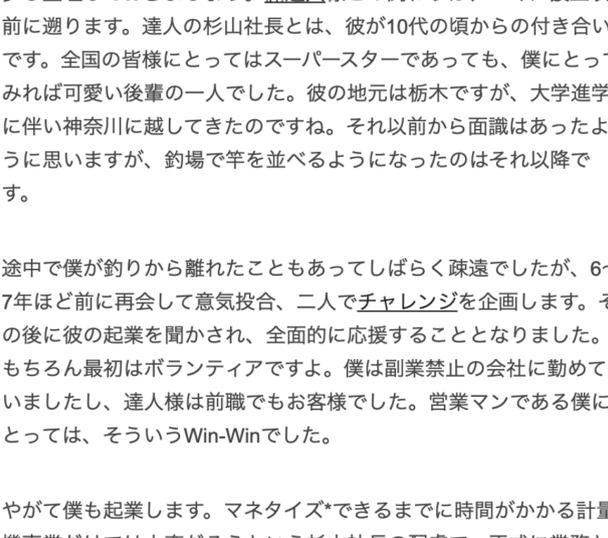


最後のピース 人生は奇跡の連続

2020年2月29日・仕事、ヘラ釣り

2/24、[アート・ヘラ・ポンド](#)さんへ出掛けてきました。動画の撮影です。日陰ということもありThe真冬といった感じの色彩の中、踊るポンポコリンなウキが醸し出す違和感。これはまさに動物たちの本能と、現代社会を生きるヒトの感覚の鈍さとの対比であって、二十四節気の立春は疾うに過ぎていることを思い知らされた一日でした。水のなかはずっかり春でしたね。

動画の内容については詳しく触れませんが、そもそも達人動画はテキストを連動させた企画ではなく、動画だけで完結することを目指していることもあります。今回書きたいのは取材時に起きたアナザーストーリーだからです。



「達人」様との関わり 2021.7.30追記
残念ながら2021.7.31をもって販売終了となりました。

とはいえ、いろいろ誤解されている方もいらっしゃるようなので、少し整理しておきましょう。**（※達人様との関わりは、つぐに設立以前に遡ります。達人の杉山社長とは、彼が10代の頃からの付き合いです。全国の皆様にとってはスーパースターであっても、僕にとってみれば可愛い後輩の一人でした。彼の地元は栃木ですが、大学進学に伴い神奈川に越してきたのです。それ以前から面識はあったように思いますが、釣場で竿を並べるようになったのはそれ以降です。**

途中で僕が釣りから離れたこともあってしばらく疎遠でしたが、6〜7年ほど前に再会して意気投合、二人でチャレンジを企画します。その後に彼の起業を聞かされ、全面的に応援することとなりました。もちろん最初はボランティアですよ。僕は副業禁止の会社に勤めていましたし、達人様は前職でもお客様でした。営業マンである僕にとっては、そういうWin-Winでした。

やがて僕も起業します。マネタイズ*できるまでに時間がかかる計量機事業だけは大変だろうという杉山社長の配慮で、正式に業務として請け負うことになりました。つぐにの登記以前から申し出ていただいていたので、動画制作は事業目的として会社定款にも正式に記載されていますし、[ウェブサイト](#)にも事業の一つとして載せています。

当初、スーパースターである彼が知り合いのアマチュアなオッサンにWebや動画を依頼したなんていう舞台裏は、知られない方が良いでしょう。彼に夢を乗せる全国のファンからすれば、とってもショボい話じゃないですか。でもね、やはり起業直後ってというのはお金が掛かるんですよ。少しでも節約したほうが良いんです。それに、釣りのことをまるで知らない制作会社に依頼するよりは、釣りに詳しいアマチュアの方が価値があると彼は言ってくれたんです。そりゃ嬉しかったですよ。あのスギタツに僕の釣りが認められた訳ですからね。

個人的には声高に叫びたい気持ちをぐっと堪えて今日まで来ました（笑）、まあもうかなり以前からバシバシしていましたね。僕の文体は隠せませんし、釣場で撮影していれば誰かがカメラマンなのかは一目瞭然です。その結果、江成は達人の社員説、影のモニター説等々が囁かれる事態となりましたが違います。達人様から見れば僕は外注先です。僕から見ればクライアント様。「個人として」達人推しな投稿を展開したことも事実なので、誤解を生じさせた原因は僕にあります。エサはちゃんとお店で買っています。そういうところ、キッチリしないと気が済みません。

*マネタイズ=収益化：ネットワーク機能を司る無料ソフトウェアと、ハードウェア事業は別体になる可能性がある前提での発言です。ハードに積むOSもライセンス販売となれば、利益が出るようになる、という言葉が相応しいかと（笑）

ニュートラルと選択の連続

そもそも僕は、メーカーに縛られることが嫌いでした。モニターやインストラクターに憧れた時代を経たのは事実ですし、実際に数社で経験があります。品目で言えばハリ、糸、エサ、ウキです。だからこそ言える贅沢な話なのかもしれませんが、ヘラ釣りがプロとして生業になる訳でもない現在は、何のしがらみもなく自分の好きなエサや道具で釣りをすることが、いちばん幸せなのです。大抵のメーカーでサポートが100%ある訳ではありませんから、持ち出しも当然あります。僅かな支給品で足りない分は、使いたくもないものまで買わされるハメになります。

目先では小遣いが浮くように見えますが、自分のお金で買った方が長い目で見て安い筈です。一時の承認欲求や自己顕示欲を満たしても、それだけでは満足できない時期を必ず迎えます。人間は有り難みを忘れる生き物だからです。よほどの信者であるか、メーカーのビジョンに共感しているかでない、と長続きしません。影で文句を言いながらサポートを受け続けるのはマナー違反だと思います。さっさと辞めるか、きちんと直接ぶつけるべきです。それが仕事でしょう。

チャンポンなエサ使いこそ消費者として正しいと常々発信してきた僕が、単独エサメーカー推しに再転向するのは勇気が要ることでした。メーカー縛りが一切ないニュートラルを掲げるクラブを主宰していれば尚更です。それでも、可愛い後輩を応援しない訳にはいかないという個人としての思いが勝りました。彼の志、作りたいエサのビジョンにも共感できました。

人生には選択が伴います。選択の連続です。境界を曖昧にして時間稼ぎしたいのはヤマヤマでも、旗色を示さねばならない時があります。ニュートラル=いざという時に選択しないこと、ではない筈です。ここだ！と感じた時に自信を持って判断を下すため、フィルターをかけずに情報を集めるアンテナが、ニュートラルだと考えます。

トヨタのトラックで日産の仕事は請けられない、というような慣習が現代にもあるのかわかりませんが、無いのであればビジネスはビジネスです。ニュートラルは八方美人とは違いますが、僕は既存クライアントの競争相手の仕事だって請けますよ。依頼があれば、ですが（笑）。それがプロでしょう。

アマチュアから始まった仕事でプロとは何様だと言われるかもしれませんが、対価を得ていけばプロです。そういう自覚はあります。プロの名に恥じぬよう、何より既存のクライアント様が笑われることのないよう機材にも投資し、様々な研修も受講し、品質向上に日々努めています。本日ここでカミングアウトしたからといって、俺が作ったんだぜ〜と言ってまわることはないですが、真剣に取り組んでいることはお伝えさせていただきます。

過去の清算

さて、ここから本編です（笑）。未練があると誤解されるので、前職についてはあまり触れない方が良いでしょう。そういうアドバイスを友人から受けることもあります。僕と同じ釜の飯を食った方が池のオーナーだと聞かされたら、書かずにおれないでしょう。今回はそんなお話です。

まず、僕は前職に未練は有りませんが、やはり23年もしれば愛した会社だったことは否定できません。前回ブログの**黒歴史**に愛想が尽きたと書いていてもです。23年のトータルで見れば既に億単位の給与を受け取り、家族を養ってきた訳です。仕事に社会的意義を見出したからこそ続けられたと思っていますし、今もいつか後援したいと見守りたい気持ちです。

愛社精神から派生した過剰な自己犠牲精神が企業をつげがらせ、そこで働く自分の首を絞め、ひいては国際競争力を低下させているのは事実でしょう。なんでもかんでも欧米化する必要はありませんが、内需だけでは国家経済を維持できない現代世界において、他国の基準に合わせる努力を怠った日本の凋落は必然でした。ガラパゴスな進化はある意味鎖国と同義です。同時に、一時は愛社精神が日本の原動力だったことも事実です。善と悪とで切り分けることは難しい話だとも思います。

西洋文化に日本流のアレンジを加え、且つ勤勉さから来る精巧なモノづくりは、世界を席巻しました。ウォークマンやVHSを作り出すことも出来ました。最近よく聞く、どの分野でも政治的に米国に押さえつけられているせいだという解釈は、己の反省と進歩を奪います。貿易摩擦で叩かれてもおお、ジャパニーズナンバーワンな時代は間違いなくあったからです。僕ごときが語るべきではない領域なのは重々承知です。先ほどと矛盾するようにも思いますが、ガラパゴスならガラパゴスを貫く道もあったのかなとも感じます。働き方改革に代表されるような中途半端なソフト路線が、日本を弱体化させたのだらう、と。

未練がないとは確信した上で、最後の最後まで満たされなかったと感じていた何かは、アートのオーナーと話して見えました。やはり僕の本音は、もっとモーレツに働きたかったんですね。安い労働力の発展途上国が世界の工場になる理屈と同じで良いから、それこそ死ぬほど働いて、時給単価にすると笑っちゃうほど安くても、アホみたいな長時間労働で月給を積み上げの方がマシだと。そういう価値観を根っここの部分に持っていたことに気がきました。退社までの数年で自身のモーレツ時代を否定し、歯車の分際でやり甲斐を求めた愚を自らに説きましたが、最後はゆとりが生まれて業績不振になった組織から準リストラ勧告という流れ。心のどこかで、ナメるな、俺はまだまだやれるぜ？と。事実、朝になるうがメシを抜こうが、好きなだけ働ける幸せを噛み締めている今の僕がいます。

相手はどう思っているか知りませんが（笑）色々あったけれども自分としては円満退社のもりでし。現在は客として取引もあります。恨みつらみもありません。なのに、いつか暴露本を書いてみたいと思わせる何か。誰かに読んでもらいたいと思わせる何か。それは、僕が無意識に求めていた理想とかけ離れてしまった組織の姿だったのでしよう。いやもちろん、暴露本なんか書きませんよ。元社員の告発系動画なんか、すでに腐るほど出ていますから。書くなら小説です！？

奇跡の連続

新商品で業界に革命を起こした創業家の二代目社長。いや、業界ではなく世の中を変えた二代目社長から直接薫陶を受けた人物と、今回はじめてお話することが出来ました。商品開発に携わり、**プロジェクトX**を地で行くジリ貧からの大逆転劇、スーパー右肩上がりの**八チャメ**チャな時代を経験された元・千葉主〇支店長のお話を聞き、心から羨ましく感じました。僕が退社した時と変わらない名前の古い社内報も見せてくださり、二代目社長とのツーショット写真を裏表紙に認めると、ああ、これだったんだと。嫌みのない武勇伝はお聞きしていて楽しく、たまたま良い時代に居ましたと言える謙虚さが、僕の涙を誘います。人事課システムを基礎を作り、少子化が避けられない時代の流れの中でいつかは破綻する可能性も認識しながら、20年近い時を見守ってきた訳です。そのような方と退社してから出会うとは皮肉ですが、おかげで最後のピースが埋まった気がしました。

オーナーの前職と僕の前職とでマッチングしてくださった方は、偶然に居合わせたへら鮎社の伊藤洋一社長でした。伊藤洋一の常識編を書いた時、後に社長になるとは思ってもいませんでしたが、奇しくも前職とへら鮎社にも因縁がありました。実はへら鮎社の先代社長と面接し、入社は一年待ってくれと言われ、腰掛けのつもりで入社したのが前職なのです。つまり一日で両社を過去にできたこととなります。懸案だった個人サイトも作り、増資もし、準備期間終了宣言したこの絶妙なタイミングで、へらに始まりへらに終わったのです（鮎に始まり〜の誤用は承知）。こんな奇跡は有りません。もう、振り返ることはないでしょう。プロジェクトXな日々は、計量器プロジェクトでも達人様でもイマ味わわせていただいています。次男も高校受験に合格し、幸せな人生です。

おっと！今日は2/29ですね。12年前に職場で大事件が起きたんですが（笑）それも忘れようと思います。

